

20 大基評第 237 号

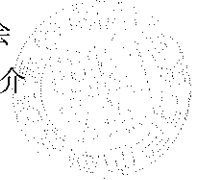
2021 (令和3) 年3月24日

群馬県立女子大学

学長 小林 良江 殿

公益財団法人 大学基準協会

会長 永田 恭介



「改善報告書」の検討結果について (通知)

拝啓 春暖の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本協会の事業推進のため、種々ご協力を賜り、深謝申し上げます。

標記に関し、貴大学からご提出いただきました「改善報告書」につきまして、大学評価委員会及び理事会において慎重に審議を行い、別紙のとおり検討結果をとりまとめましたので、ここに通知申し上げます。

この検討結果を貴大学の一層の改善・向上にご活用くださるよう、お願いいたします。

敬 具

【同封資料】

「改善報告書検討結果 (群馬県立女子大学)」

※評価の過程を通じ、追加で根拠資料の提出があった場合には、当該資料について

「[3] 各指摘事項に対する改善状況」の「改善状況を示す具体的な根拠・データ等」に追記しております。

以 上



## 〈 改善報告書検討結果（群馬県立女子大学） 〉

### [1] 概評

2016（平成28）年度の本協会による大学評価において、貴大学に対して、努力課題として5項目の改善報告を求めた。これを受けて、貴大学では、「自己点検・評価運営委員会」を中心に検討を行い、各学部・研究科において改善活動に取り組んできたものの、改善の認められない項目がみられるため、以下に示す改善が不十分な事項については、更なる対応を求める。

第一に、教育課程の編成・実施方針（努力課題No.1）について、文学研究科において見直しをしたものの、新たに追記した「人文学に関わる高度な知識・技能を修得して地域社会や国際社会の発展に寄与しうる人材を育成するために」という文言は、教育内容・方法等に関する基本的な考え方とはいいがたい。学位授与方針で示した学習成果を学生に身に付けさせるため、教育課程の体系、教育内容、授業科目区分等に関する基本的な考え方を示すよう、引き続き改善が望まれる。

第二に、教育方法（努力課題No.3）について、大学院において、2019年（令和元）年度後期から「授業改善のためのアンケート」を実施しているものの、アンケート結果は活用できておらず、研究科独自の教育の観点に特化した教育内容・方法等の改善を図るための活動が行われているとはいいがたいため、改善が望まれる。

第三に、編入学の学生の受け入れ（努力課題No.4）に関して、編入学（県内推薦）試験を転入学及び編入学試験と統合するなど改善に努めてきたものの、2020（令和2）年度の編入学定員に対する編入学生数比率は、英米文化学科で0.60、美学美術史学科で0.33、総合教養学科で0.50と依然として低いため、改善が求められる。

第四に、大学院の学生の受け入れ（努力課題No.5）に関して、収容定員に対する在籍学生数比率が、国際コミュニケーション研究科で0.05と依然として低いため、改善が望まれる。

以上の事項について、引き続き改善に取り組むとともに、貴大学が掲げる理念・目的の実現のために、不断の改善・向上に取り組むことを期待したい。

### [2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

### [3] 各指摘事項に対する改善状況

#### 1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・

	実施方針
指摘事項	文学研究科における教育課程の編成・実施方針は、教育内容・方法等に関する基本的な考え方を示していないため、改善が望まれる。
評価当時の状況	<p>文学研究科では、平成 26 年度に、研究科並びに各専攻について、教育研究目的及び学位授与方針に沿った「教育課程編成・実施方針」を明文化し、平成 27 年度から『履修要項』並びに大学ウェブサイトに掲載し、周知していた。</p> <p>また、具体的な教育課程は専攻別に『履修要項』に掲載し、各授業科目の配当学年、開講期、必修・選択の別、単位数については、『履修要項』の教育課程表、「時間割表」、及び大学ポータルサイト上の授業シラバスにおいて、個別に欄を設け、全科目において明記していた。</p> <p>しかし、教育課程の編成・実施方針については、研究科全体及び専攻ごとに定めているものの、育成すべき人材像を記述するにとどまっており、教育内容・方法等に関する基本的な考え方が示されていなかった。</p>
評価後の改善状況	<p>平成 29 年 5 月から文学研究科教務学生委員会において、教育内容・方法等に関する基本的な考え方を明示した教育課程の編成・実施方針について検討を開始し（資料 1-1-1、資料 1-1-2）、同年 12 月文学研究科委員会にて、新しい教育課程の編成・実施方針が決定された（資料 1-1-3、資料 1-1-4）。その後、平成 29 年 12 月及び平成 30 年度末の文学研究科委員会及び自己点検・評価運営委員会で改善状況について報告を行った（資料 1-1-5、資料 1-1-6、資料 1-1-7）。</p> <p>具体的には、文学研究科の教育課程の編成・実施方針に「人文学に関わる高度な知識・技能を修得して地域社会や国際社会の発展に寄与しうる人材を育成するために、」の文言を入れ、教育内容・方法等に関する基本的な考え方を示した。なお、平成 29 年度以降の履修要項等には改善後の教育課程の</p>

	編成・実施方針が示されている（資料 1-1-8）。
改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
○資料 1-1-1_H29 第 2 回文学研究科教務学生委員会議事録（H29.5.24）	
○資料 1-1-2_H29 第 2 回文学研究科教務学生委員会資料（H29.5.24）	
○資料 1-1-3_H29 第 7 回文学研究科教務学生委員会議事録（H29.11.15）	
○資料 1-1-4_H29 第 7 回文学研究科教務学生委員会資料（H29.11.15）	
○資料 1-1-5_H29 第 8 回文学研究科委員会議事録（H29.12.6）	
○資料 1-1-6_H29 第 12 回文学研究科教務学生委員会報告資料（H30.3.6）	
○資料 1-1-7_H29 第 7 回自己点検・評価運営委員会議事録（H30.3.27）	
○資料 1-1-8_文学研究科カリキュラムポリシー	
大学ホームページ	
<a href="https://www.gpwu.ac.jp/post_229/index.html">https://www.gpwu.ac.jp/post_229/index.html</a>	

No.	種 別	内 容
2	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容
	指摘事項	文学研究科では、修了要件単位として認定される学部学生との共通科目において成績評価方法などを課程ごとに明確に区別していないので、教育の質保証の観点から改善が望まれる。
	評価当時の状況	文学研究科の各専攻においては、研究（講義）・演習・個別研究指導等の科目のほか、基礎的な研究方法を学ぶため、「日本語日本文学研究法」等の導入科目を置いていた。また、高度な教養教育科目として学際的な「共通科目」を設置し、さらには他専攻、他研究科、文学部、「群馬学センター」「地域日本語教育センター」などで修得した単位の一部を修了要件として認めていた。 しかし、修了要件単位として認定される学部学生との「共通科目」において、成績評価方法などを課程ごとに明確に区別していなかった。
	評価後の改善状況	平成 29 年 6 月の文学研究科教務学生委員会において文学部との共通科目について、文学研究科のシラバスに、修士課程についてふさわしい成績評価方法を明記することを決定した(資料 1-2-1)。その後、平成 29 年度（以降）のシラバスでの記述について

	<p>確認がなされ(資料 1-1-6)、平成 30 年 3 月の自己点検・評価運営委員会でも、その取り組み状況が報告された(資料 1-1-7)。なお、成績評価方法に差がない科目については、授業目標や到達目標、授業計画等で違いを示している(資料 1-2-2)。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>○資料 1-2-1_H29 第 3 回文学研究科教務学生委員会議事録 (H29.6.21)</p> <p>○資料 1-2-2_R2 文学部・文学研究科シラバス例 (日本語学演習 3、中古文学演習 1、英米文化演習 5)</p>	

No.	種 別	内 容
3	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法
	指摘事項	文学研究科において、研究科独自の教育の観点に特化した教育内容・方法等の改善を図るための活動が十分に行われていないため、改善が望まれる。
	評価当時の状況	<p>文学研究科の各専攻においては、講義形式・演習形式の授業、作品制作のための実技など、分野の性質や科目の主旨等に応じた授業形態を採用しているとともに、学生に対して各研究テーマに関連した研究分野の教員 2 名を主指導教員・副指導教員として定めており、「個別研究指導」が 4 専攻で毎学期必修として行われていた。</p> <p>また、平成 27 年度からは、「研究指導計画書」の作成とそれに基づく指導が行われており、その旨を『履修要項』に掲載し、学生と教職員に周知していた。</p> <p>しかし、教育内容・方法等の改善を図るため、全学的なFD講習会へ参加しているものの、研究科独自の教育の観点に特化したFD活動や施策が十分に行われていない状況であった。</p>
	評価後の改善状況	平成 29 年 6 月の文学研究科教務学生委員会において、他大学の事例を調査することが決定した(資料 1-2-1)。全国の公立大学に向けて、アンケート「大学院における少人数の授業改善方法に係る調査」を

	<p>行い、「大学院における少人数の授業改善方法に係る調査票 集計結果」を得た(資料 1-3-1、資料 1-3-2)。集計結果を参考にしつつ教務学生委員会並びに文学研究科委員会にて検討し、平成 30 年 3 月の自己点検・評価運営委員会で最終確認のうえ(資料 1-1-6、資料 1-1-7)、令和元年度後期から、これまで学部で行ってきた個別の授業ごとのものに加え、大学院全体に対するアンケートを開始する運びとなった(資料 1-3-3)。アンケート結果は、FD活動も含め、研究科独自の教育改善活動の実施に当たり有効活用する。</p>
	<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料 1-3-1_H29 第 8 回文学研究科教務学生委員会議事録(H29.12.20)</li> <li>○資料 1-3-2_H29 第 8 回文学研究科教務学生委員会資料(H29.12.20)</li> <li>○資料 1-3-3_R1 後期・大学院生アンケート</li> </ul>

No.	種 別	内 容
4	基準項目	5. 学生の受け入れ
	指摘事項	文学部では、編入学定員に対する編入学生数比率が、英米文化学科で 0.30、美学美術史学科で 0.67、総合教養学科で 0.25 と低いので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	文学部では、転入学及び編入学試験での入学定員充足率は、年度又は学科によっては充足している場合もあったが、学部全体としては、おおむね未充足の状況で推移していた。平成 28 年度の大学評価受審時、編入学定員に対する編入学生数比率(平成 26 年度及び平成 27 年度の転入学及び編入学生で算出)が、英米文化学科で 0.30、美学美術史学科で 0.67、総合教養学科で 0.25 と低い状況であった。
	評価後の改善状況	編入学定員に対する編入学生数比率としては依然低い状況であるが、転入学及び編入学を充足させるため様々な検討を重ねてきた。その議論の中では、定員の削減という方向性も検討されたが、当面、削減は行わず、現定員を充足するべく努力を重ねることが申し合わされた。そして、具体策としては、

		<p>平成 30 年度の入試委員会及び教育研究審議会において、編入学（県内推薦）試験を転入学及び編入学試験と統合することを決定した（資料 1-4-1、資料 1-4-2）。これは、県内の短期大学において、4 年制大学への改組や学生の定員減、在籍者数の減少などの状況が見受けられることに鑑み、県内の短期大学・短期大学部の学生のみを対象にした編入学の推薦試験枠を設け続けることの意義が薄れつつあることや、むしろ対象をより広く求め、門戸を広げることを選択したことによるものである。</p> <p>令和 2 年度の編入学定員に対する編入学生数比率は、英米文化学科で 0.60、美学美術史学科で 0.33、総合教養学科で 0.50 と、評価受審時に比較すると改善が見られたが、依然として、年度や学科により波がある（資料 1-4-3 の表 4）。今後は、学内における対策検討を引き続き各学科・課程単位で行うとともに、県外短期大学への訪問などによる PR の強化といった取り組みを継続して実施する。</p>
	<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>○資料 1-4-1_H30 第 1 回大学入学者選抜改革検討会議議事録（H30.9.12）</p> <p>○資料 1-4-2_H30 第 11 回教育研究審議会資料（H30.9.26）</p> <p>○資料 1-4-3_大学基礎データ 表 3・表 4</p>	

No.	種 別	内 容
5	<p>基準項目</p> <p>指摘事項</p>	<p>5. 学生の受け入れ</p> <p>国際コミュニケーション研究科の収容定員に対する在籍学生数比率が、0.40 と低いので、改善が望まれる。</p>



<p>評価当時の状況</p>	<p>大学評価のための資料作成時、すなわち平成 27 年度の国際コミュニケーション研究科は、収容定員 20 名（各学年の入学定員 10 名）のうち、在学生在が 8 名、収容定員に対する在籍学生数比率は 0.40 と低かった。</p> <p>それ以前から本研究科の定員充足率の低さは認識されており、様々な広報活動などを実施していたが、大きな成果を上げることができなかった。また、本学大学院全体としても定員充足率に問題があることは認識されており、平成 26 年度より自己点検・評価運営委員会の下に、大学全体における大学院の将来像を考えることを目的にした大学院改革検討部会が設けられた。平成 27 年 10 月に開催された同運営委員会において、検討部会より将来的な可能性としての文学研究科・国際コミュニケーション研究科統合について報告を受けた。しかし、研究科の統合に関する法令上の制度、手続きが存在しないことなどが判明し、その後、本研究科の定員充足率改善のための具体的な方策についての検討は進まずにいた。</p> <p>育に携わる社会人の外国人学生が数名おり、英語で行われる授業を履修して英語で修士論文を執筆し、修士号を取得してキャリアに生かしていったという実績に着目し、群馬県近辺に在住する外国にルーツを持つ者や外国人教師を新たなターゲットに、キャリアアップにもつながる大学院としての広報活動に力を入れることにした。具体的には、令和元年 9 月以降、群馬で教えている外国語指導助手の Facebook Group に本研究科の学生募集情報を掲載したり、群馬県大泉町で開催されたブラジル総領事館主催の教育フェアに本研究科・学部のブースを出したりした（資料 1-5-3、資料 1-5-4）。</p> <p>令和元年度は、受験者・合格者 2 名を出し、うち 1 名が経済的理由で入学を辞退したものの 1 名が入学し、認証評価受審以降 3 年間続いた受験者・合格者・入学者 0 名の状況を脱した（資料 1-4-3 の表 3）。</p>
----------------	---

	<p>特徴的なのは、上記2名が外国にルーツを持つ学生と群馬県内で英語を教える外国人教師であったことで、上述のような新しい学生確保施策に可能性を感じている。また、今年度は新たに <b>Study in Japan Global Network Project-South America</b> という <b>Facebook Group</b> に、本研究科の教員とブラジル人修了生が作成したポルトガル語による広報ビデオを掲載し、南米（出身）の学生にも本研究科の情報を届ける試みを行っている（資料1-5-5）。令和2年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、0.05（資料1-4-3の表4）と依然低迷しているが、今後は、英語による教育・指導を受けて修士号が取得できるという本研究科の強みも生かしながら、定員充足率向上のためのより組織的な広報活動に取り組み、また、より魅力的なカリキュラム構築のための検討も継続していく。</p>
<p>評価後の改善状況</p>	<p>国際コミュニケーション研究科では、上記の検討部会報告以前から、また、認証評価受審のプロセスとも並行して、研究科の将来について独自に検討を進めていた。平成28年度に一旦は、国際コミュニケーション研究科を閉鎖して学部教育の充実に集中した方がよいのではないかとの結論に至ったものの（資料1-5-1）、平成30年度の本学独立法人化後の議論の中で、法人関係者等からの助言もあり、学部の専門性が担保されていることを明確化するためにも研究科は存続させ、定員充足率向上に向けて新たな方策を模索していくことが確認された（資料1-5-2）。</p> <p>これを受け、法人化2年目の令和元年度には、研究科長の指示により、定員充足率向上に向けて新たな広報活動を開始した。それまで院生の中に語学教</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料1-5-1_H28 第2回国際コミュニケーション研究科委員会議事録 (H28.5.11)</li> <li>○資料1-5-2_H30 第4回国際コミュニケーション研究科委員会議事録 (H30.9.5)</li> <li>○資料1-5-3_群馬に來ている外国語指導助手の Facebook Group での国際コミュ</li> </ul>	

ニケーション研究科の学生募集の情報

[https://www.facebook.com/groups/12497875194/?post\\_id=10162555162695195](https://www.facebook.com/groups/12497875194/?post_id=10162555162695195)

○資料 1-5-4\_(1)教育フェアパンフレット

(2)教育フェアウェブページ

<https://www.alternativa.co.jp>

[/Noticia/View/82014/Oizumi-recebe-Feira-de-Educacao-neste-sabado-26](#)

○資料 1-5-5\_Study in Japan Global Network Project-South America

(<https://www.facebook.com/StudyinJapanGNP/>) に掲載した本研究科の広報ビデオ

<https://www.facebook.com/StudyinJapanGNP/posts/803944266797729>

<https://www.facebook.com/StudyinJapanGNP/posts/803943146797841>

以上

